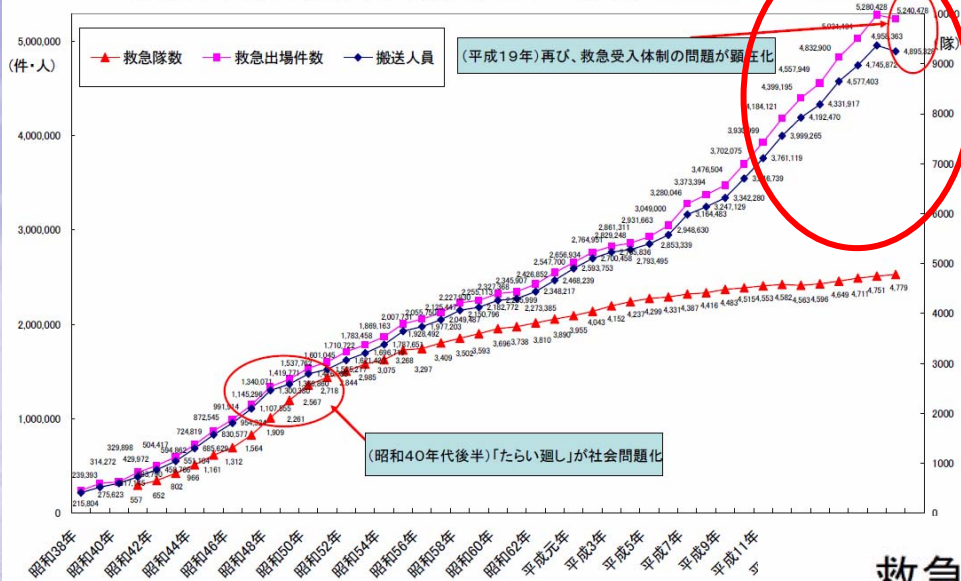


# 救急出場件数及び搬送人員の推移 (昭和38年～平成18年)



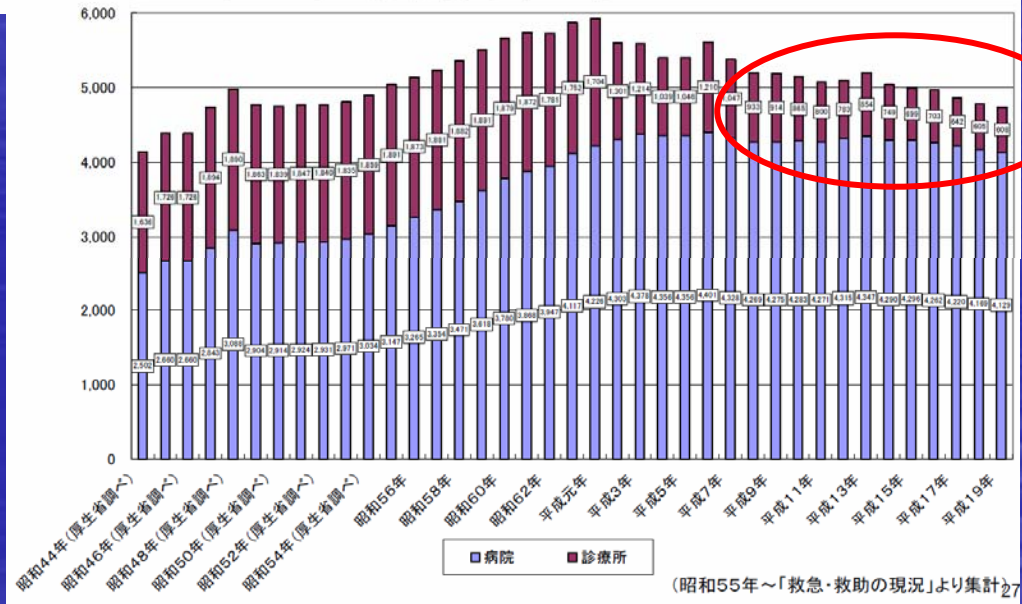
・救急搬送人数の増加

・救急医療機関の減少



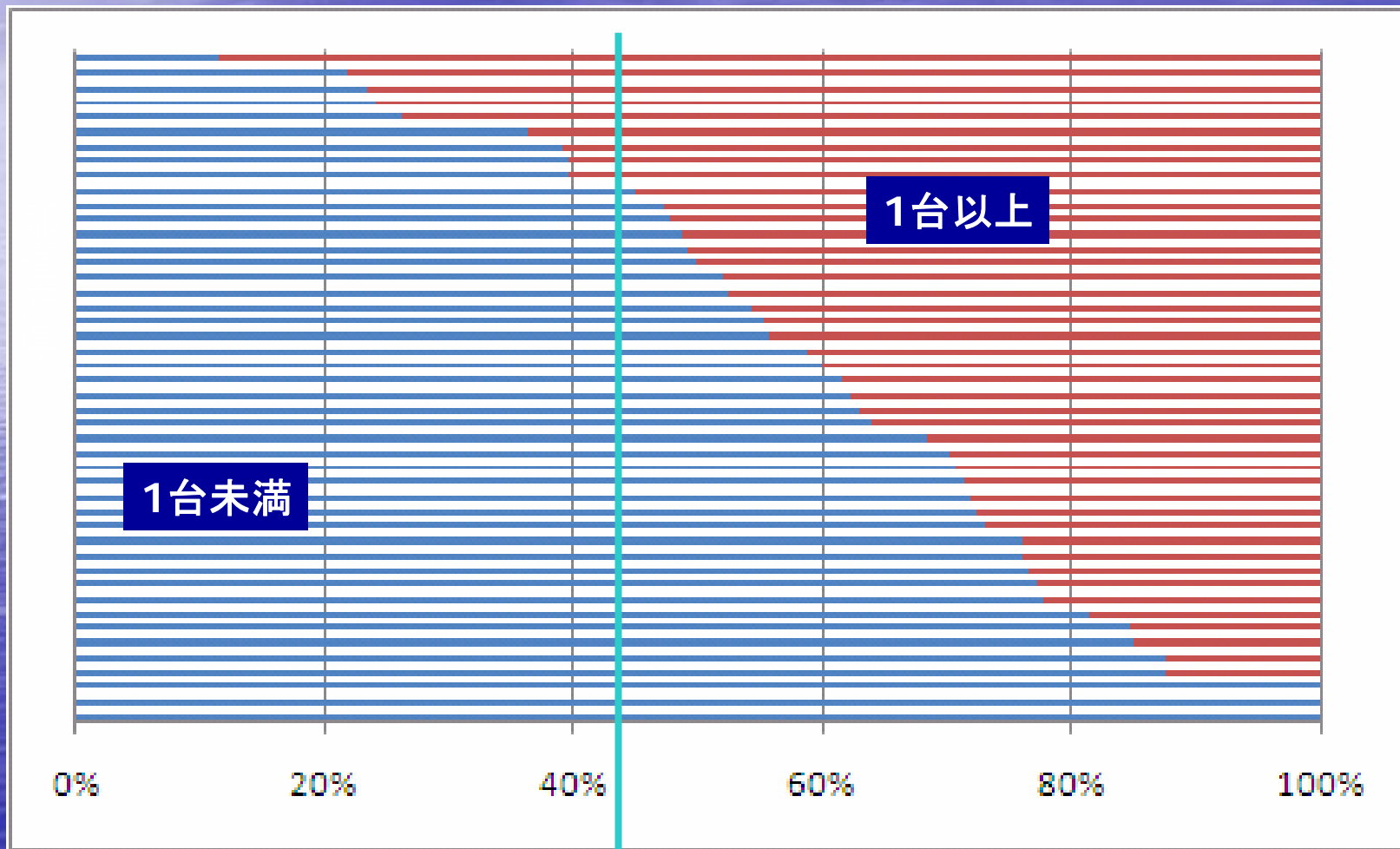
施設あたりの負担増加

# 救急告示医療機関数の変化 (昭和44年～平成19年)



(昭和55年～「救急・救助の現況」より集計)

# 二次輪番救急医療施設における 当番日毎の患者の受入れ(都道府県別)

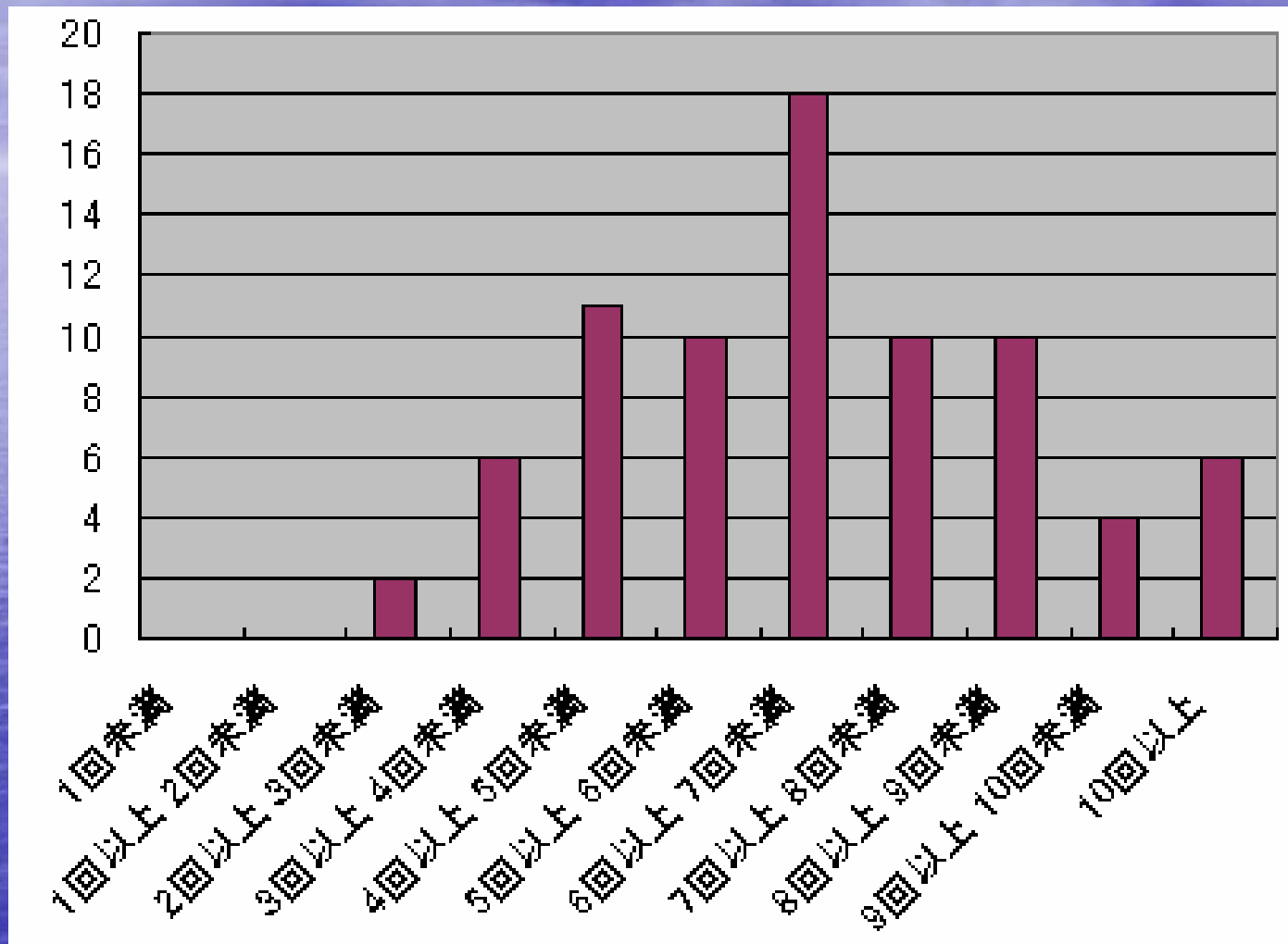


全国値  
1台未満42%

平成17年度

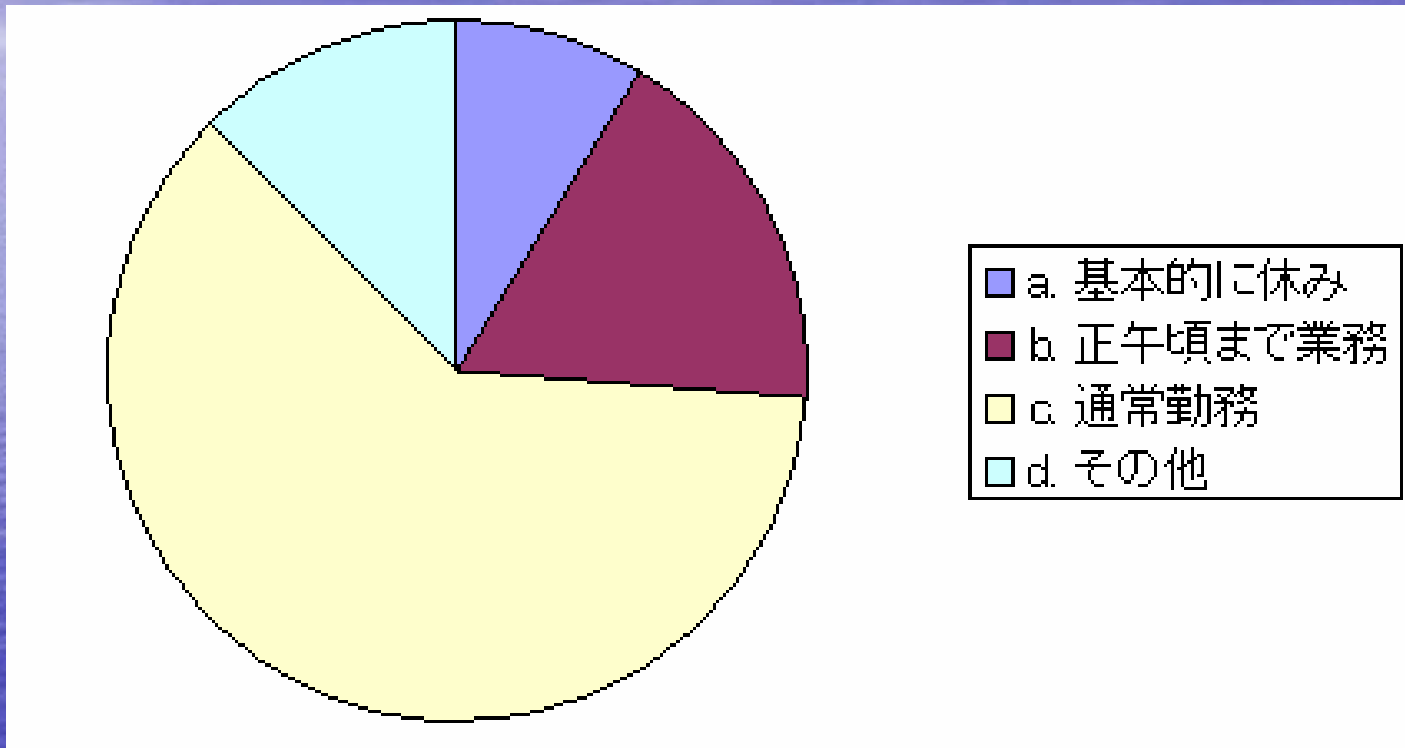


# 救命救急センター医師の当直回数(1ヶ月)



平成19年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業  
「救命救急センターにおける医師の勤務状況の調査」

# 救命救急センター医師の当直明け勤務態勢



平成19年度厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業  
「救命救急センターにおける医師の勤務状況の調査」

# 救急専従医の不足

救急科専門医数: 1,867名 (含認定医: 約2,500名)

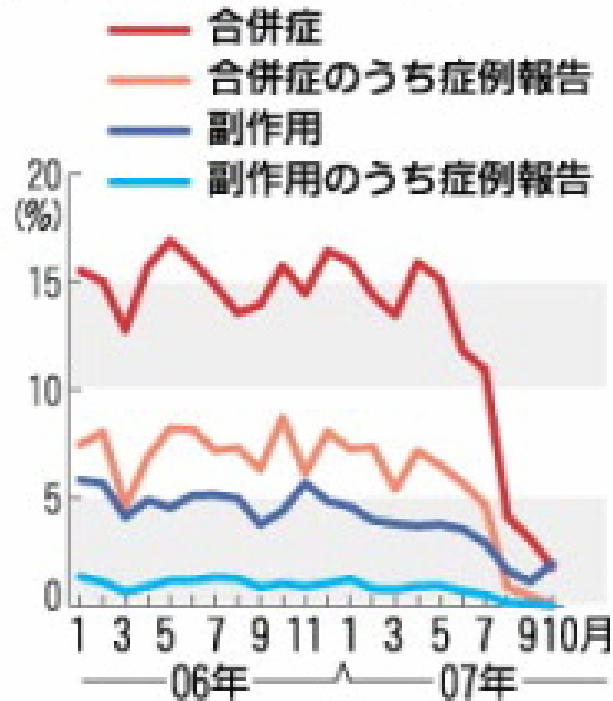


指導医・専門医他、救急専従医師の必要数: 約5,000名  
(1施設 25名 × 200施設)

救急医療の現場では、救急科専門医が少ない上に業務が多忙であることにより、燃え尽き症候群も多く慢性的なマンパワー不足が続いており、このままでは救命救急センターの運営に多大な影響を及ぼすと思われる。診療の安全性からも、また、本邦における医療供給体制全般を考えると、**救急医の十分な人員の要請と確保は極めて重要**である。

# 増加する医療過誤報道と萎縮医療

副作用や合併症に関する  
医学論文の割合の推移



副作用や合併症に関する医学論文の割合の推移

# 救急医療の標準化

- 心疾患

一般市民	BLS + AED
救急室	ICLS, ACLS

- 外傷

救急隊員	JPTEC (Japan Prehospital Trauma evaluation & care)
救急室	JATEC (Japan Advanced Trauma evaluation & care)

- 脳卒中

救急隊員	PSLS (Prehospital Stroke Life Support)
救急室	ISLS (Immediate Stroke Life Support)



# 一般市民が使用するAED



新宿駅（東京メトロ）



東京国際空港

突然の心停止例での生存率 → 3.8%

目撃者があり一般市民がAED使用での生存率 → 31.1%

## 平成13年度 厚生労働科学特別研究事業

救命救急センターにおける重症外傷患者への対応の充実に向けた研究

- 2000年の1年間に全国救命救急センターにおいて死亡した外傷症例のうち、Preventable Trauma Deathである可能性の高い症例の割合が、

**38.6%**

重症外傷を扱うことが制度上指定されている三次救急医療施設でのこの結果は、俄には信じがたく一般市民には到底受け入れられないものではない